



自動車総連

全日本自動車産業労働組合総連合会

2023年5月19日発行 自動車総連 第556号 (通刊726号)

ホームページアドレス : <https://www.jaw.or.jp>

フェイスブックアドレス : <https://www.facebook.com/jaw5811/>

東京都港区高輪 4-18-21 View-well Square

電話 / 03 (5447) 5811 (代表)

発行人: 金子 晃浩

- 親子deものづくり開催報告
- 親子deものづくりプラス紹介

- 顧問議員 国政報告 磯崎 哲史 参議院議員
- 顧問議員 国政報告 浜口 誠 参議院議員

親子deものづくり 各地で続々開催!

次世代に伝えたい
「ものづくり」の楽しさを
車の魅力や

自動車総連は、「車の魅力」を次世代に伝えることで、将来の自動車ユーザーに繋げ、あわせて「ものづくり」の大切さ、楽しさを学んでいただくことを目的に、2009年の東京モーターショーに「親子deものづくり」を出展しました。その後、2011年から各地協で開催をしており、親子deものづくりの会場では、こどもたちにトラックやレースカー、二輪車などのモーター工作やペーパークラフトを作ってもらい、「ものづくり」の楽しさを体感いただいています。

第29期前半期(2021年9月~2022年8月)はコロナ禍により14地協での開催に留

まりましたが、第29期後半期(2022年9月~2023年8月)は4月末時点で既に14地協で開催され、各地で大変好評を得ています。本年4月にも各地のメーデー会場で8地協が親子deものづくりブースを出展し、参加者からは「自分で作った車が動いてすごいと思った!」「好きな色に塗れてとても楽しかった」「このような機会はあまりなく、親子で楽しむことができた」など大変嬉しい言葉をいただきました。

今後も本取り組みを継続し、次世代に車の楽しさや魅力、「ものづくり」の大切さや楽しさを伝えていきます!



親子deものづくり プラス 始動!

50th Anniversary

ゲームでもっと 楽しく遊んで学べる!

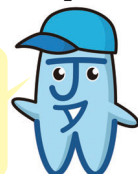
自動車総連は昨年10月に50周年を迎え、記念事業のひとつとして車の楽しさや社会貢献を体感できる様々な仕掛けを盛り込んだゲーム連動型のぬりえ「親子deものづくり プラス」を製作しました。各地の親子deものづくり会場にて配布をしているほか、自動車総連ホームページからダウンロードして参加できますので、皆様もぜひチャレンジしてみてください!

1. ぬりえ



ぬりえはここからダウンロードしてね!

自動車総連公式マスコット「ジョー」



3. 学びサイト



2. ゲーム



国政報告



いそざき 哲史
参議院議員
isozakitetsuji.com

賃上げと子育て

自動車総連顧問議員 参議院議員
いそざき 哲史

昨年、国民民主党は政府の総予算案に、野党として44年ぶりに賛成しました。ガソリン価格をはじめとした急激な燃油価格高騰に対して、いわゆるトリガー条項の凍結解除を訴えた我々の案を政府が受け止め、一定の対策を講じたことが最大の理由でした。

本年、令和5年度総予算案には反対しました。理由は、「給料が上がる経済」の実現、子育て・少子化対策には不十分な予算規模、内容であったからです。私自身、3月13日の参議院予算委員会で、とりわけ中小企業の賃上げの環境整備に向けた具体的な取り組みや、約30年間結果が出ていない少子化対策について岸田総理に質しましたが、ほとんど具体的な答弁はありませんでした。そのため我々は、予算案の内容変更を求める動議（編成替え動議）を提出し、賃上げ税制の見直し、児童手当等子ども・子育て支援の公的給付の所得制限撤廃を

はじめとした具体施策を提案しましたが、同動議は否決されました。

一方で、3月末に政府が発表した「こども・子育て政策試案」では、児童手当の拡充や所得制限の撤廃、学校給食無償化の課題整理等々、我々が長きにわたり訴えてきたものがやっと盛り込まれましたが、あくまで検討項目止まりであり、昨年1月には、総理が施政方針演説で人への投資を「倍増する」としていたことからすれば、あまりにも動きが遅い状況です。

給料が上がる経済の実現、人への投資は待ったなしの課題です。災害対策やパンデミック時の対応も含め、国の対応だけを待つのではなく地方からも新しく思い切った施策の実施が望まれます。私や浜口議員は国政から、自治体の組織内議員の皆さんは県政、市政から政府の尻を叩くつもりで、支援組織の皆様とともに取り組んでいく思いを共有したいと思います。



【資料】政府予算案に
編成替えを求める動議
(国民民主党)



はまぐち 誠
参議院議員
hamaguchimakoto.com

日本全体のカーボンニュートラル推進に向けた環境整備

自動車総連顧問議員 参議院議員
はまぐち 誠

自動車総連の皆さんには、日頃から私たち議員団をご支援いただき、誠にありがとうございます。4月に行われました統一地方選も、全国各地で仲間の候補者を応援いただきました。今回の結果をしっかり総括した上で、今後の選挙に課題や反省点を生かしていくことが重要です。

今国会では、日本全体のカーボンニュートラル（CN）を推進していくために、2つの大変重要な法案が議論されました。1つ目のGX推進法では、今後10年間で20兆円規模のGX経済移行債（脱炭素成長型経済構造移行債）が発行されることになります。また、このGX経済移行債は、化石燃料賦課金と特定事業者負担金によって、2050年度までに償還されます。化石燃料賦課金は、2028年度から化石燃料の輸入事業者に対して、CO₂の量に応じて

徴収されます。また、2033年度から排出量取引制度により発電事業者に対して一部有償でCO₂の排出枠（量）を割り当て、その量に応じて特定事業者負担金を徴収することになります。こうしたカーボンプライシングの導入とその時期を明確にすることによって、日本全体のCN推進を図り、企業にも予見可能性を高めることにつながります。2つ目のGX脱炭素電源法では、原子力発電を運転開始から30年を超えて運転しようとする場合、10年以内毎に原子力規制委員会の許可が必要となります。併せて、原子力規制委員会による安全確認のもとに、他責等による予見し難い理由での停止期間を考慮し、60年を超える原子力発電の稼働を認める内容です。

日本のCNを着実に前進させるには、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの活用を図るとともに、原子力発電の利用など、現実的な対応が求められています。

今後とも、全力で取り組んでいきますので、ご支援を宜しくお願い致します。



詳しくはコチラ

日本労働組合総連合会(連合)

節電を心がけましょう！

「連合エコライフ ピークカットアクション2023夏」の取り組みに連動し、自動車総連も7月1日から8月31日までを強化月間として呼びかけています。一人ひとりが節電をより心がけていただくよう、職場や組合事務所、在宅によるテレワークなど、それぞれの働き方に応じて、できるところから取り組んでみてください。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。